

現代日本学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
現代日本学概論Ⅰ	現代日本における職業	2	田中 重人	3	金曜2限
現代日本学概論Ⅱ	現代日本学の方法と対象	2	茂木 謙之介	4	月曜4限
現代日本学基礎講読Ⅰ	現代日本学英語文献講読	2	田中 重人	3	金曜4限
現代日本学基礎講読Ⅱ	雑誌分析入門	2	茂木 謙之介、赤井 紀美	4	火曜3限
現代日本学各論Ⅰ	メディア・ミックスの歴史と 展開	2	赤井 紀美	5	月曜2限
現代日本学各論Ⅱ	天皇(制)とスピリチュアリ ティ試論	2	茂木 謙之介	6	火曜5限
現代日本学各論Ⅲ	現代日本における家族と 人口	2	田中 重人	6	水曜2限
現代日本学各論Ⅳ	花と少女の日本文学	2	西原 志保	5	木曜3限
現代日本学各論Ⅴ	「マンガ」とは何か	2	岩下 朋世	6	集中講義
現代日本学各論Ⅵ	恋愛・家族のメディア分析	2	永田 夏来	5	集中講義
現代日本学講読Ⅰ	日本学論文講読	2	赤井 紀美	5	火曜2限
現代日本学演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	田中 重人、赤井 紀 美	5	月曜3限
現代日本学演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	田中 重人、茂木 謙 之介、赤井 紀美	6	月曜3限
現代日本学演習Ⅱ	怪異にかんする映像の研 究	2	茂木 謙之介	6	水曜5限
現代日本学演習Ⅲ	現代日本における社会問 題の分析	2	田中 重人	6	金曜4限
現代日本学演習Ⅳ	近現代女性文学の分析	2	赤井 紀美	5	火曜4限

科目名：現代日本学概論 I

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：田中 重人

コード：LB35201, 科目ナンバリング：LHM-OHS204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本における職業

2・授業の目的と概要：職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。これらのトピックについて作文を完成させる課題、法律や統計などの資料を探索・解釈する課題、授業中のグループ討論などをこなす必要があります。

3. 学習の到達目標：現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 労働統計(1) さまざまな働きかた
- 労働統計(2) 賃金と労働時間
- 雇用をめぐる法と政策
- 外部労働市場と内部労働市場
- 企業の人事管理と労働者のキャリア
- ここまでの復習と中間試験
- 社会階層と職業
- 社会移動と職業・教育
- ジェンダーと労働
- 社会的不平等と職業
- 期末試験
- 授業全体のまとめと試験結果講評

5. 成績評価方法：毎回の課題（40%）、中間試験（30%）、期末試験（30%）によって評価する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

厚生労働省（2024）『知って役立つ労働法』。

労働政策研究・研修機構（2010）「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。

宮本太郎（2009）『生活保障』岩波書店。

犬塚先（編）（2003）『新しい産業社会学』（改訂版）有斐閣。

嵩さやか・田中重人（編）（2007）『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。

7. 授業時間外学習：各回の課題遂行及び復習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/occ/> に掲載予定

科目名：現代日本学概論Ⅱ

曜日・講時：月曜 4 限

semester：4 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB41401, 科目ナンバリング：LHM-OHS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本学の方法と対象

2. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の基礎的な方法について概説する。「メディア」「表象」「言説」をキーワードとして、文化研究の方法としての批評理論を紹介し、具体的な検討を通して理解を図る。

3. 学習の到達目標：現代日本学の方法について理解し、先行論文を正確に読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第 1 回 イン트로ダクション

第 2 回 「メディア」「表象」「言説」から考える

第 3 回 批評理論の歴史

第 4 回 物語論①

第 5 回 物語論②

第 6 回 脱構築批評

第 7 回 メディア論

第 8 回 表現の不自由

第 9 回 アダプテーション

第 10 回 翻訳論

第 11 回 歴史と物語

第 12 回 文化研究の思考

第 13 回 ジェンダー批評

第 14 回 ポストコロニアル批評

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や期末試験を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学基礎講読 I

曜日・講時：金曜 4 限

semester：3 単位数：2

担当教員：田中 重人

コード：LB35403, 科目ナンバリング：LHM-0HS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本学英語文献講読

2. 授業の目的と概要：日本に関する英語文献を取り上げ、その読解と文献の内容／コンテキストについての討論をおこなう。

3. 学習の到達目標：学術的な英文の読みかたを理解し、日本学に関連する英語文献を自らの研究に役立てる基礎的な技術を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

日本に関する英語文献について、各自の担当部分を報告し、それに基づいて討論を進める。

5. 成績評価方法：担当部分の報告（50%）、議論における発言（50%）。

6. 教科書および参考書：なし

7. 授業時間外学習：報告の準備および各回の予習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学基礎講読Ⅱ

曜日・講時：火曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-OHS207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：雑誌分析入門

2・授業の目的と概要：本授業では、現代の雑誌を講読し、メディア分析の方法を学ぶ。雑誌メディアから日本学を考究することの可能性と困難さを考える。毎回発表者を立ててテキストを精読し、議論を行う。参加者には事前にテキストを熟読することが求められる。

3. 学習の到達目標：雑誌分析についての基本的な知識を獲得するとともに、口頭報告と議論の技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第 1 回 インTRODakション

第 2 回 担当の決定と資料検索の方法

第 3 回 準備報告①

第 4 回 準備報告②

第 5 回 雑誌講読①

第 6 回 雑誌講読②

第 7 回 雑誌講読③

第 8 回 雑誌講読④

第 9 回 雑誌講読⑤

第 10 回 雑誌講読⑥

第 11 回 雑誌講読⑦

第 12 回 雑誌講読⑧

第 13 回 雑誌講読⑨

第 14 回 雑誌講読⑩

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：毎回、事前のテキスト精読が必須となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論 I

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-OHS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：メディア・ミックスの歴史と展開

2・授業の目的と概要：メディア・ミックスとは、複数の媒体を組み合わせる広告戦略や、小説やマンガ、ゲームなどのコンテンツを異なるメディアへと展開させる手法の事を指す。現在の日本では恒常的にメディア・ミックスが行われているが、実は江戸時代からこうした手法は行われてきた。本講義では、日本のメディア・ミックスの歴史について江戸時代から現代までの流れについて学び、日本学研究のための多角的な視点を養う。

3. 学習の到達目標：江戸時代以降の日本のメディア・ミックスの歴史と展開について理解する。
日本学研究のための多角的な視座を獲得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：メディア・ミックスとアダプテーション
- 第3回：江戸時代①
- 第4回：江戸時代②
- 第5回：江戸時代③
- 第6回：江戸時代④
- 第7回：近代①
- 第8回：近代②
- 第9回：近代③
- 第10回：近代④
- 第11回：戦後①
- 第12回：戦後②
- 第13回：現代①
- 第14回：現代②
- 第15回：まとめ

5. 成績評価方法：出席・授業参加度（50%）、レポート（50%）を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：授業内で指示する。

7. 授業時間外学習：受講生は到達目標や授業内容に応じた準備学習を行なうこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB62501, 科目ナンバリング：LHM-OHS302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：天皇(制)とスピリチュアリティ試論

2・授業の目的と概要：これまで天皇と宗教的権威に関する研究はかなりの蓄積をみせてきたが、戦後社会においては端的に宗教的な権威として天皇を考えるだけでは説明がつけにくい事例が多数確認される。例えば平成期における天皇(制)をめぐる「祈り」ということばが頻出したが、その「祈り」の内実などは十全に明らかにしがたいものでもあった。本授業においては「スピリチュアリティ」を分析概念として導入し、これらの問題に応答することを目指す。授業の過程では報道や文化現象などを素材に、表象分析や言説分析を試みる。

3. 学習の到達目標：戦後日本社会における報道や文化現象に関する分析を行うことが出来るようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 天皇・皇族・皇室研究の動向①
- 第3回 天皇・皇族・皇室研究の動向②
- 第4回 スピリチュアリティ研究の動向①
- 第5回 スピリチュアリティ研究の動向②
- 第6回～第14回 事例研究
- 第15回 まとめ

5. 成績評価方法：上位 10 パーセントを AA、次の 10 パーセントを A とする。成績評価は授業への参加を中心とする。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：授業前に資料精読を要請する場合がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅲ

曜日・講時：水曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：田中 重人

コード：LB63206, 科目ナンバリング：LHM-OHS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本における家族と人口
2. 授業の目的と概要：特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する
3. 学習の到達目標：現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る
4. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：はじめに：社会分析のための知識と方法
 - 第2回：法と規範
 - 第3回：法的な情報を調べる方法
 - 第4回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論
 - 第5回：現代日本の家族法について補足説明
 - 第6回：人口統計と人口現象
 - 第7回：20世紀日本社会の人口変動
 - 第8回：講義前半の振り返りと進度確認
 - 第9回：ライフサイクルの変化
 - 第10回：近代化にともなう社会変動
 - 第11回：工業化と都市化
 - 第12回：イエ制度の解体と個人主義化
 - 第13回：日本的経営と福祉国家
 - 第14回：講義後半の振り返りと進度確認
 - 第15回：講義全体のまとめと講評
5. 成績評価方法：授業中に課す課題および宿題による
6. 教科書および参考書：なし
7. 授業時間外学習：各回の課題に対応する予習・復習と宿題
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本文学各論Ⅳ

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：西原 志保

コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-OHS304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：花と少女の日本文学

2・授業の目的と概要：日本文学や日本文化における花の表象を見る。

花は古来、性愛や生殖と重ねられてきたが、近代以降「生殖を禁じられた」少女に重ねられるようになっていく。古典作品においては、生殖や性愛に重ねられる花と、花にたとえられる人物との重なりやずれに注目する。近代以降の作品においては、花の表象がどのように変化したのか、ジェンダー論的な観点から考察する。

3. 学習の到達目標：日本文学や日本文化における花の表象を見ることで、社会や文化における生殖と性愛をめぐる権力構造を理解し、自らとの関係を考えることができる。また、様々な資料を参照し、関連づけながら、自分の読みを提示するスキルを身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

- 1 ガイダンス：花と性愛と生殖、テキストを読む手法
- 2 『かざしの姫君』
- 3 『桜姫東文章』
- 4 『秋の夜長物語』
- 5 『古事記』石長比売と木花之佐久夜毘売、『源氏物語』若紫
- 6 京極夏彦『絡新婦の理』
- 7 『東海道四谷怪談』と京極夏彦『嗤う伊右衛門』
- 8 『紫式部集』
- 9 野溝七生子『山柵』
- 10 石井桃子『幻の朱い実』
- 11 『源氏物語』女三の宮
- 12 夏目漱石『それから』と尾崎翠『第七官界彷徨』
- 13 森茉莉『甘い蜜の部屋』
- 14 現代における植物表象

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：西原志保『花と少女の日本文学』（春秋社、2026年）。参考書は適宜授業内で指示する。

7. 授業時間外学習：授業内で扱う書籍は、事前に読んでおくことが望ましい。授業内で分からなかった点は自分で調べたり、質問したりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論V

曜日・講時：集中講義

セメスター：6 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-OHS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：「マンガ」とは何か

2・授業の目的と概要：マンガについて、その定義、歴史、ナラティブについて学ぶ。マンガは日本において大変ポピュラーな文化である。それだけに我々は「マンガとは何か」について、分かっているような気になってしまいがちである。しかし、この講義では新旧の様々な具体例を取り上げながら、「マンガとは何か」という問いが実はきわめて難しいものであることを示していく。受講者には議論への積極的な参加を求める。

3. 学習の到達目標：マンガの歴史と表現について理解し、作品を分析するスキルを身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 「マンガ」のさまざまな定義
- 第3回 「北斎漫画」はマンガか？
- 第4回 コマと物語
- 第5回 戦争とマンガ「のらくろ」を事例に
- 第6回 マンガと出版文化①
- 第7回 マンガと出版文化②
- 第8回 手塚治虫と少女マンガ
- 第9回 少女マンガにおける異性装
- 第10回 マンガにおけるイメージと言葉①
- 第11回 マンガにおけるイメージと言葉②
- 第12回 萩尾望都「半神」を読む
- 第13回 マンガを読む-受講者による発表①
- 第14回 マンガを読む-受講者による発表②
- 第15回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポート、発表を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論VI

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-OHS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：恋愛・家族のメディア分析

2. 授業の目的と概要：マンガを中心としたポピュラーカルチャー作品を素材に、そこに描かれる恋愛・結婚・家族の表象を家族社会学の視点から分析する方法を学ぶ。作品の精読を通じて、現代日本社会における親密な関係性の変容について考察する。

3. 学習の到達目標：ポピュラーカルチャー作品を社会的に分析する基本的な視座と方法を習得し、恋愛・結婚・家族をめぐる社会規範について批判的に考察できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 家族社会学の基礎とメディア分析 (1)
2. 家族社会学の基礎とメディア分析 (2)
3. メディア表象と社会の関係
4. マンガに描かれる恋愛とジェンダー (1)
5. マンガに描かれる恋愛とジェンダー (2)
6. マンガに描かれる結婚と制度 (1)
7. マンガに描かれる結婚と制度 (2)
8. 作品分析と生活実践を結びつける視点と方法
9. マンガに描かれる家族と親密圏 (1)
10. マンガに描かれる家族と親密圏 (2)
11. グループワーク (1)
12. グループワーク (2)
13. グループ発表 (1)
14. グループ発表 (2)
15. 全体討論とまとめ

5. 成績評価方法：出席および各回の課題提出 [60%]、グループ発表 [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。参考書：永田夏来・高橋幸 編『恋愛社会学』ナカニシヤ出版，2024年

7. 授業時間外学習：授業内で紹介された作品や文献の内容を把握し、理解を深めること。グループ発表に向けて、担当作品の読解と分析を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代日本学講読 I

曜日・講時：火曜 2 限

semester：5 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB52204, **科目ナンバリング：**LHM-OHS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本学論文講読

2・授業の目的と概要：本授業では日本学に関連する論文の精読を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では様々な方法論を検討する。受講者は学期中に最低一回の口頭報告を行う。

3. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して文献講読の方法を理解し、自らの問題意識を先鋭化させることが出来ることが到達目標である。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容は授業の進行によって変更する場合もある。

第 1 回 インTRODakション

第 2 回 報告についてのガイダンス

第 3 回 報告準備

第 4 回 論文購読

第 5 回 論文講読

第 6 回 論文講読

第 7 回 論文講読

第 8 回 論文講読

第 9 回 論文講読

第 10 回 論文講読

第 11 回 論文講読

第 12 回 論文講読

第 13 回 論文講読

第 14 回 論文講読

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：必要な資料を適宜配布する。

7. 授業時間外学習：1 回研究発表

12 回ディスカッション

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業の構成上、履修者数の上限があるため、上限に達した場合は抽選を行う。

科目名：現代日本学演習 I

曜日・講時：月曜 3 限

semester：5 単位数：2

担当教員：田中 重人、赤井 紀美

コード：LB51307, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本学の実践

2. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

3. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。

第1回：はじめに

第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

5. 成績評価方法：発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。参考書は授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 3限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：田中 重人、茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LB61304, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本学研究の実践

2. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

3. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。

第1回：はじめに

第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

5. 成績評価方法：発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。参考書は授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

semester：6 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB63502, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：怪異にかんする映像の研究

2. 授業の目的と概要：怪異はメディアを媒介して拡散する。本授業では戦後社会において怪異を描いた映像作品について分析を行う。参加者は事前に映像を鑑賞し、授業においては発表者を立てて、その発表内容に基づいて議論を行う。

3. 学習の到達目標：戦後日本社会における怪異表象について分析を行うことが出来るようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 インTRODakション

第2回～第14回 事例研究

第15回 まとめ

5. 成績評価方法：上位 10 パーセントを AA、次の 10 パーセントを A とする。成績評価は授業への参加を中心とする。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：授業前に映像鑑賞を必須とする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅲ

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：田中 重人

コード：LB65406, 科目ナンバリング：LHM-OHS310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本における社会問題の分析

2. 授業の目的と概要：各自の関心に基づいて問いを立て、資料・データを収集・分析し、批判的思考と議論を通じて答えを導くプロセスを体験する。

3. 学習の到達目標：文献探索、読解、論証、討論など、研究のための基本的なスキルを習得する。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

受講者各自の関心にしながら文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながらレポートを作成する。

- はじめに：この授業での課題設定と調査の方法
- 文献データベースの利用と論文の読みかた
- 論文について発表
- 引用をたどる
- 中心的情報源
- 専門用語と理論体系
- 資料の評価と活用
- アイディアの創出
- 議論を組み立てる
- 研究プロジェクトの計画と遂行
- レポート提出および口頭試問

5. 成績評価方法：授業中の課題（30%）、途中経過等報告と討論での発言（30%）、期末レポート（40%）

6. 教科書および参考書：【参考書】佐藤望ほか（2020）『アカデミック・スキルズ』（第3版）慶應義塾大学出版会

7. 授業時間外学習：授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしながら研究プロジェクトを進める

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/study/> に掲載予定。

科目名：現代日本学演習IV

曜日・講時：火曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB52403, **科目ナンバリング：**LHM-OHS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代女性文学の分析

2. 授業の目的と概要：この授業では、日本の女性作家の作品を理解し、批評的に読解することを目指す。

3. 学習の到達目標：作品を主体的に読解することができる。
社会的・文化的な文脈において作品を意義付けることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回担当者による発表と討論を行う。

第1回 イン트로ダクション

第2回 担当者による発表

第3回 担当者による発表

第4回 担当者による発表

第5回 担当者による発表

第6回 担当者による発表

第7回 担当者による発表

第8回 担当者による発表

第9回 担当者による発表

第10回 担当者による発表

第11回 担当者による発表

第12回 担当者による発表

第13回 担当者による発表

第14回 担当者による発表

第15回 担当者による発表

5. 成績評価方法：発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。

6. 教科書および参考書：授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：